

博士論文審査結果報告
Report on Ph.D. / Doctoral Dissertation Defence

政策研究大学院大学
教授 諸星 穂積

審査委員会を代表し、以下のとおり審査結果を報告します。

On behalf of the Doctoral Thesis Review Committee, I would like to report the result of the Ph. D. / Doctoral Dissertation Defence as follows.

学位申請者氏名 Ph.D. Candidate	Lu Yang		
学籍番号 ID Number	PHD11105		
プログラム名 Program	Policy Analysis Program		
審査委員会 Doctoral Thesis Review Committee	主査 Main referee	諸星 穂積 MOROHOSI, Hozumi	主指導教員 Main advisor
	審査委員 Referee	田中 誠 TANAKA, Makoto	副指導教員 Sub advisor
	審査委員 Referee	荒井 洋一 ARAI, Yoichi	副指導教員 Sub advisor
	審査委員 Referee	園部 哲史 SONOBE, Tetsushi	博士課程委員会委員長 Chairperson of the Doctoral Programs Committee
	審査委員 Referee	吉田 雄一郎 YOSHIDA Yuichiro (広島大学大学院国際協力研究科 教授)	外部審査員 Referee from outside institutions
論文タイトル Dissertation Title	ESSAYS ON ASIAN AIRPORTS' PRODUCTIVITY AND COMPETITIVENESS アジアの空港における生産性と競合についての研究		
学位名 Degree Title	博士 (公共経済学) / Ph.D. in Public Economics		
論文提出日 Submission Date of the Draft Dissertation	平成 28 (2016)年 8 月 30 日	論文審査会開催日 Date of the Degree Committee Meeting	平成 28(2016)年 9 月 27 日
論文発表会開催日 Date of the Defense	平成 28(2016)年 9 月 27 日	論文最終版提出日 Submission Date of the Final Dissertation	平成 28(2016)年 11 月 22 日
審査結果 Result	合格 pass		

1. 論文要旨 Thesis overview and summary of the presentation.

本論文は、主に2つの部分から成り、前半では台湾の空港の効率性についての長期的な変化を、政策変更の前後で比較している。一方後半では、航空券購入に関する個票データを用い、旅客のハブ空港に関する選択行動について統計モデルを用いた分析をしている。

台湾の空港分析では、データ包絡分析(DEA)を用いて、空港の規模による違いを考慮した上で、入力(空港の施設等)出力(旅客数、貨物数等)間の比率から求められる効率値の経時変化を詳細に検討した。さらに、計算された効率値をいくつかの変数により回帰分析を行って、両者の関係について検討した。その結果、航空行政の政策変更によって、空港ごとに異なる変化が生じていることを示し、今後の競争力強化についての提言をしている。

後半では、欧州と大洋州の間の旅客が、アジアの二大ハブ空港である香港とシンガポールのどちらでの乗換ルートを選択するかという行動モデルを、個票データ(revealed data)を用いて分析した。統計モデル(ロジット回帰モデル)を提案して、航空券の価格や、ルートの利便性などの項目とルート選択との関係にある程度説明できることを示した。また、結果を空港や航空会社の戦略に生かすための方策について議論を行った。

2. 審査報告 Notes from the Doctoral Thesis Review Committee (including changes required to the thesis by the referees)

審査委員会は、当該論文が学術的に十分な水準にあるという結論に達し、各委員から出された質問・コメントに応えるように原稿が修正された上で、合格とするものとした。修正稿の確認は主査に一任するものとした。

審査会で指摘された主な点は以下のようなものである。

- ・ 本研究は因果関係の分析を行ったものではないので、その点に注意していくつかの記述を改めるべきである。
- ・ いくつか関連する文献で追加すべきものがある。
- ・ 前半部分の回帰分析で、効率的でないものだけで部分的に回帰してみると結果の再チェックがおこなえるのではないか。
- ・ 前半部分で、DEAの結果とMalmquist指数の結果をもう少し詳細に関係づけて説明してほしい。
- ・ 前半部分で、回帰を行うとき外部性に注意しておく必要があるのではないか。
- ・ 後半部分のロジット回帰では、説明変数の参照値を必要とする。この際、いくつかの方法が考えられるので、それらを試してみる必要があるのではないか。
- ・ 導入部分で、研究の必要性や動機の記述に改善を望む。

- ・ 後半部分で, revealed data の stated data に対する優位性をもっと説明したて欲しい.
- ・ 最終章の構成について, より順序立てた展開をしてほしい.

3. 最終提出論文確認結果 Confirmation by the Main Referee that changes have been done to the satisfaction of the referees

Lu Yang による修正稿の提出を受け, 主査はその内容について, 指摘された点に対する対応がなされていることを確認し, 最終稿として受理することを認めた.

4. 最終審査結果 Final recommendation.

Lu Yang を最終審査に合格したもものとして博士課程委員会に推薦する.